

令和六年度 入学試験 (一般選抜試験 A日程) 問題

国語

受験番号

◎指示があるまで開かないこと

【注意事項】

1. 受験票を座席表の横に置くこと。
2. 試験開始後乱丁、落丁が無いかを確認すること。印刷不鮮明がある場合は監督官に申し出ること。
3. 机上には、受験票、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、時計(アップルウォッチ等は不可・アラーム機能は停止) 以外は置いてはならない。
4. 携帯電話・スマートフォン等の電源は切ってカバンにしまうこと。
5. 解答時間は六〇分である。
6. 試験開始後最初に、問題と解答用紙に受験番号を必ず記入すること。
7. 試験開始後、三〇分を経過すれば退出することができる。退出者は、問題と解答用紙を机上に伏せて静かに退出すること。ただし、終了一〇分以後の退出は認めない。
8. 試験中に発病等で、一時休養を希望する場合は、挙手をして監督官の指示に従うこと。トイレ等で席を立ちたい場合も、挙手をして監督官の指示に従うこと。

【一】A欄の熟語とB欄の熟語を組み合わせ、四字熟語を五つ完成させなさい。ただし、各欄には一つずつ余分な熟語が含まれています。(二〇点)

- | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|----|
| A | 有為 | 画竜 | 自家 | 志操 | 大山 | 和洋 |
| B | 菓籠 | 堅固 | 鳴動 | 折衷 | 無象 | 点睛 |

【二】それぞれの傍線部に当たる漢字を含む熟語を、各群の中から一つ選び、番号で答えなさい。(二〇点)

- | | | | | | |
|---|------------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|
| A | 事 ^コ | ①物 ^コ | ②凝 ^コ | ③ ^コ 大 | ④ ^コ 別 |
| B | カ ^イ 収 | ①カイ転 | ②カイ革 | ③国カイ | ④世カイ |
| C | 疑 ^モ ン | ①モン章 | ②モン絶 | ③モン題 | ④モン前 |
| D | 挫 ^セ ツ | ①セツ備 | ②解セツ | ③骨セツ | ④セツ続 |
| E | 契 ^ヤ ク | ①ヤク職 | ②ヤク束 | ③翻ヤク | ④活ヤク |

【三】次のA～Eの作品の作者を①～⑥から選び番号で答えなさい。(二〇点)

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|-------|---|-------|---|---------|---|------|
| A | 雪国 | B | 金閣寺 | C | 走れメロス | D | 痴人の愛 | E | アルウェイの森 | | |
| ① | 三島由紀夫 | ② | 夏目漱石 | ③ | 川端康成 | ④ | 谷崎潤一郎 | ⑤ | 太宰治 | ⑥ | 村上春樹 |

【四】次の文章を読み、後の問に答えなさい。(三十五点)

人はなぜ失敗に学ぶ必要があるのでしょうか。失敗学」の基本的なスタンスでもあるこのテーマを考える上での重要なヒントは、これもまた私自身の体験の中に取りました。

学生たちへの指導を通じて痛感したのは、失敗することを決して否定的にとらえてはならないということ。また、教育現場で真に求められているのは、正しい知識のA^デン^タツもさることながら、失敗を怖れずに伝えるべき知識を体感・実感させることであり、本当の意味で身につけて使える知識は、そうした体感・実感なしにはマスターできないということです。

機械工学を学ぶ学生たちはエンジニアの初心者、デザインを学ぶ学生はデザイナーの初心者、経済学を学ぶ学生はエコノミストの初心者といえます。

I、どここの教育現場でも事情は同じかと思いますが、彼らのような初心者の学習と失敗とは、本当に切っても切れないB^ミツ^セツ

な関係にあります。

実際、エンジニアの初心者に、お手本となるサンプルを一切あたえずに自分自身でもものをつくらせてみると、誰しもはじめはまともなものなどつくれず、まず間違いなく失敗します。デザイナーやエコノミストの初心者もしかりで、手本を示さずに知識のないゼロの状態からデザインなり投資計画なりを立てさせても、まともなものなどできるはずがありません。

このとき向学心の強い初心者ほど、「痛い」「つらい」「損をした」という気分を味わい、強い挫折を感じるものです。むしろこの挫折感は、あらかじめ手本を示してこれをマネさせる、いわば正解への最短の道を進む指導をすれば避けて通ることもできるものですが、その場合、本人はほとんどなにも得られません。

Ⅱ、どちらの指導方法を探るかで、両者の間に⑥明らかな差が生じるといのが、長年の指導経験で得た答えだったのです。

結論からいえば、最初のうちに、あえて挫折経験をさせ、それによって知識の必要性を体感・実感しながら学んでいる学生ほど、どんな場面にも応用して使える真の知識が身につくことを知りました。

この学習方法は、学生たちがそれまで慣れ親しんできた勉強方法とは明らかに異なります。受験用の勉強は、与えられた設問への答えの出し方を最短距離で学ぶ、まさに合理的学習法ですが、残念ながらこれだけでは吸収した知識を本当に身につけることはできません。とおりいっぺんの形だけの知識は身につくものの、それは深い部分にまでは根づかず、したがって本当の意味での自分の知識として使うことができないからです。

この隙間を埋めるには、やはり体感・実感がともなった体験学習が必要で、失敗することを厭わず、失敗体験を⑦セツキヨクテキに活用する必要があります。

これは、子どもの教育全般などにもそのままいえます。「こうすれば失敗しない、こうすれば成功する」「これはダメ、あれはダメ！」という教育方法では、やはり知識の表面的な理解しかできません。そこに欠落している深い理解なしには応用力は身につかないのです。無駄を省いた合理的学習法は好んで使われているものの、その弱点についてあらためて考え直す必要があります。

実際、必要な失敗をあえて経験させながら、子ども自身が学び取るようにしてはじめて、子ども⑧ハンダン能力は増加するものです。

Ⅲ、ナイフは危ないから気をつけろといっているうちに、いまでは学校でも家でもナイフを子どもたちが使う機会はほとんどなくなりました。その結果子どもたちは、たしかにナイフを使って手を切ることとはなくなり「安全」を手に入れましたが、一方ではナイフで手を切るという小さな失敗をする経験を⑨ウバわれたともいえるのです。おそらくナイフで手を切るとい痛

い経験をしていない子どもは、ナイフが実際どれくらい危険なものか、きちんと理解できないまま成長することになります。

「ア 失敗を不用意に避けることは、将来起こりうる イ 失敗の準備をしていることだ」ということを、もっと私たちは知るべきなのです。

畑村洋太郎 『失敗学のすすめ』より。出題の都合により原文の表記を改めた箇所がある。

問一 傍線部 A～E に関し、カタカナを漢字に直しなさい。

問二 I ～ III に入れるのにもっとも適当な語を次の中からそれぞれ選んで番号で答えなさい。

- ① たとえば ② しかし ③ つまり ④ ゆえに ⑤ そして

問三 傍線部① 明らかな差」とはどのようなものか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問四 ア と イ に入れるのにもっとも適当な組み合わせを次の中からそれぞれ選んで番号で答えなさい。

- ① 小さな 大きな ② 重要な 軽度な ③ 客観的な 主観的な
④ 感情的な 冷静な ⑤ 理論的な 実践的な

【五】 次の文章を読み、後の問に答えなさい。(二十五点)

主は我が牧者なり。我、貧しきことあらじ。主は我を、緑の野にふさせ、憩いこいの水際みぎわにともない給たまう。”

これは旧約聖書の詩編にある一節である。私は別にクリスチャンでもなんでもないけれど、目を閉じて、静かにこの一節を思い浮かべるとき、ウン、そうだ——という実感がある。なぜなら、私が、まだ、この一節を知らなかった幼いころ、私なりに、この一節にピッタリの経験があるからだ。

私はもともと、東京生まれで東京育ちだから、緑の野原や川のせせらぎとは、大して親しくはないはずだった。

I、病弱で、ヤセこけた幼児期の私たち姉弟に対して、田舎育ちの両親は、気候・風土の変化による転地 A リョウホウ的な健康維持の目的で、私たちを夏は海や山へ、冬にはスキーへ

と、毎年連れていってくれた。でも、小田原海岸の大波に驚いてからは、あまり海は好きになれなかった私は、むしろ、山へのハイキングが多かった。そのころの私たち家族は、しばしば箱根の仙石高原へ出かけた。

王は我を緑の野にふさせ……”

この一節を口ずさむとき、私は、この時代の、ある日の光景を思い出す。それは、ある夏の朝のことだ。

その朝、私は食事前に山荘を飛び出した。遊びに行くつもりだったか、それとも朝食のおかずを買いに行くためだったのかは覚えていない。空の青い快晴の日だった。朝露にしっかりとぬれたカヤの道を分け、東に向かう野シバの道に出た。

とたんに、朝の斜光を正面からからだ全体に受けた私は、その道を五、六歩歩いて、なぜか非常に感動してしまったことを、今でもはっきりと覚えている。その感動は、いまもなお心の中に再現できるほどだが、しかし、それを言葉では表現しようがない。

太陽光線のスペクトルがキラキラと輝いていた。その無数で、しかもきわめて細い線の一部が、私の小さなからだ全体をすみずみまで照らす。

先刻、しっとりとぬれた日影の道で、カヤの葉先に輝いていた朝露のしずくは、もうここにはなかった。

露にぬれた私のからだは、びしょぬれのつま先まで静かに暖められた。

このつま先のぬくもりの中で、私は思わず野シバの道にひざまずいてしまった。太陽に向かって頭をたれ、幼い私の心はそれが何ものであるのかもわからないまま、ただ、ひたすら目に見えない大きな力、^Bスウコウな物を感じ、祈ったのかもしれない。

この経験以後も、私は両親に連れられ、また、大学入学後は山岳部に入部し、何回となく、山やスキーに出かけている。Ⅱ、そのなかでも強烈な印象として残っている幾つかの経験を持っている。たとえば、両親に連れられていった^{たてしな}蓼科高原の朝のこと、父が雲海を見に行こうというので^{はだ}膚を突く冷気に包まれ私たちは親類の人たちと岩の上に立った。

眼下一面に白い雲、雲の上には、はうように太陽光線が広がり、はるかかなたの山々や、その手前の山は、陽光をうけた厚い雲のジュータンの上に、ポツカリ、ポツカリ山の頂上を出し、真下の町村は、すべて雲におおい隠された雄大な雲海だった。

やはりこれも蓼科のことだが、ある嵐の日、私たち姉弟と母がこの高原にいた。昼ごろから空が暗くなり、雷が鳴り、そして雨。その雨の一本一本は、強くたく地面をたたきつけ、はね上がるしぶきは小さな私からだ半分ほども飛び上がる。そんな豪雨が降り続いた。雨がやむと、山道が一瞬のうちに沢となり、赤土や大小の石がゴロン、ゴロンと濁流に押し流されていた。

流れがひとしきりおさまると、沢の水は澄み、チョロ、チョロと音を立て落葉がたるみでクルクル回り出した。嵐がおさまり、一時、セイジャクを取りもどした感じに見えたところ、ぶきみな赤黒い夕空に、バリバリと輝く黄色い光の線が縦に走った。その後は、雷鳴だけがゴロゴロとけだるく鳴り、やがて遠雷は消えていった。すさまじい雷雨の夜、緊張感と、その後の安堵感がそこにはあった。

思い出をたどって行くと切りがない。しかし、これらの印象深い思い出と、野シバにひざまずいたときの感動とは、私の中ではっきり分けられる^①別のものだ、と私は思っている。

我、貧しきことあらじ”

緑の野に伏し、憩の水際に安らぐとき、心は限りなく豊かになるものなのだ、という考えが心の中にしみついたのは、私にとって、やはり、あの野シバにひざまずいたときではないだろうか。

緑の野や、憩の水際は自然界の持ち物だ。私は、その自然に、あるとき魅せられてしまったようだ。たぶん、それが私にとって、自然との出会いだったのかもしれない。そして、私をとらえた自然は、その後、私に数々のことを教えてくれたようだ。

先に思い出として述べた雲海は、きつと彼の持つ晴れ着の一つだったのかもしれない。彼は晴れ着を何枚も、いや無数に持っている。私は一つまた一つと、山を登りながら晴れ着の一枚一枚を見てきた。当初は、ただ美しいと思っていたが、そのうちに分類して見るようになった。夜明け前の谷間の雪崩の音、夜明けの小鳥の声、この組み合わせは音楽に聞こえた。それもダイナミックなコンサートに――。

沢の流れが青く澄み、その上に、ただ一葉浮かんだ落葉や、冬山の晴れわたった稜線に舞い上がる雪煙などの光景は、まさしく絵画として目に映った。

しかし実際、これらの音や、光景を歌や絵にしたとしたら、どうだろう。

Ⅲ

一つはあまりにロダンジュンすぎておもしろくないだろう。一度聞いたらあきてしまう音楽、一度見るだけでじゅうぶんの、感動のわかない絵にしかならないかもしれない。

彼(由)の晴れ着は、このような音楽にならない音楽や、絵にならない絵であったりすることが多い。けれど、そんな一つ一つが実にすばらしく私には感じられる。

この晴れ着には、ただ一度かぎり、二度と再び同じ物を見ることのできないところに、より美しさがあるのではないだろうか。生あるものの宿命が表れているとでもいおうか、いまでなければ見られないという、惜しむ心、移ろいゆくものへの、ものあわれがあるからこそ、美しく思うのでは……。栄華盛衰は世の常とは昔の人々も知っていたことだが、自然界の移ろいには何か

^Eシンピテキな気高さを感じる。私は、いとおしむ心の尊さは自然から学んだように思う。

今井通子 わが自然との出会い」より。出題の都合により原文の表記を改めた箇所がある。

問一 傍線部A～Eに関し、カタカナを漢字に直しなさい。

問二

I Ⅲ に入れるのにもっとも適当な語を次の中からそれぞれ選んで番号で答えなさい。

- ① そして ② しかし ③ つまり ④ ゆえに ⑤ たぶん

問三

傍線部① 別のものだ」とあるが、どのように違うのか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問四

本文の内容に合致するものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 美しい光景は、絵とや音楽して残しておくことが必要である。
イ 自然とは、人間にとって恐怖を感じるような厳しい存在である。
ウ 美しい自然を求めてさまざまようことにこそ、人生の面白さがある。
エ 自然とは、同じものが二度とは繰り返されないとこころにこそ美しさがある。
オ 自然とははかないものであり、この自然をいつまでも残せるような努力が必要である。

受験番号

--

問一

問二

A
B
C
D
E

問三

A
B
C
D
E

問四

A
B
C
D
E

問一

I
II
III

問二

--

問三

--

問四

A
B
C
D
E

問一

I
II
III

問二

--

問三

--